



「お金の使い方」を考える

東京都・筑波大学附属中学校 3年 早田 弥生

私は、1年ほど前から「お金の使い方」について考えるようになった。きっかけは、母と始めたゲーム感覚の「買い物判定」だ。判定の種類は、「浪費」「経費」「投資」の三つ。お金を使おうとする時、あるいは使った後、それが三つのうちどれか判定し合うのだ。

例えば、母とスーパーの食料品売場に行く。買い物かごに何か入れる度に、判定し合う。「これは経費、これも経費……」「じゃあ、これも経費……」「えっ、それは浪費でしょ?」「うーん、じゃあ投資!」という具合だ。

基本的な考え方としては、例えば夕食の献立に必要な食材を買うのは「経費」だが、献立には不要なのについ食べたくなって買うのは「浪費」。ただ、献立には不要でも、料理の腕をあげるために、練習で買うのは「投資」。また、特別な頼みごとがあって、父の好物を買うのも、私たちの間では「投資」だ。

判定にあたっては、^{もちろん}勿論母と議論になる。「浪費か経費か」「投資か浪費か」——それは、「浪費とは、経費とは、投資とは」という問いに他ならない。

私が、そんな議論の中で考え始めたのが、「お金の使い方」だ。身近な問題だが、改めて考えてみると決して易しいテーマではない。私は、上記三つの判定に沿って考えてみた。

まず「浪費」だが、これは文字通り無駄な出費だ。買い物なら、買った一瞬は満足感が得られても、それ以上は何も生まず、買うこと自体、資源・環境の保護の観点から社会にとってマイナスになり得る。よって、「浪費」はゼロを目指すべきだろう。

次に「経費」。これは「必要経費」といわれるように、何かのために必要となる出費だ。例えば、食事、光熱費、電話代等だが、家庭や企業でも「経費節約」に取り組むように、「経費」は必要最小限を目指すべきだろう。

そして「投資」だが、これは「経費」と違い、お金を、消費するというより、

何かを生み出したり、殖やしたりするための元手・資本にすることだ。例えば、株式投資や不動産投資は、将来の値上がりや利息・配当収入を期待して行う「投資」だが、その他、設備投資、人材投資等、将来の大きな働きを期待して、能力や価値の向上にお金をかけることも「投資」の一つだ。「投資」は、社会や人間の成長に不可欠なものであり、私たちの日常生活でも、将来何かを得るために、いま何かにお金をかけるということは少なくない。

このように考えてくると、「お金の使い方」についての基本的な心得は「浪費はゼロ、経費は最小限、投資は前向きに！」ということになりそうだが、実際はそう簡単ではない。そもそも何が「浪費」で、何が最低限必要な「経費」なのかの判断は、人それぞれの価値観によって大きく異なるし、「投資」については、やり方を間違えると、期待する成果を得られないばかりか、大きな損失を被ったり、ただの「浪費」になってしまったりするからだ。

そこで、私の考えた「お金の使い方」についての「真の心得」は、次の通りだ。

第一は、お金を賢く使える頭の準備だ。お金は何となく使うものではない。限られたお金を有効に使うには、「浪費はゼロ、経費は最小限、投資は前向きに！」と考える以前に、日常生活における様々な出費を三つに峻別^{しゅんべつ}できる見識と価値観の形成が必要だと思うのだ。

そして、そのために有効なのがライフプランニングだ。ライフプランニングには、日常生活（Life）のプランニングと、人生（Life）のプランニングがあるが、特に私たち中学生にとって重要なのは、後者のプランニングだと思う。将来どんな職業に就きたいか、人生で必ずやり遂げたいことは何か……自分が目指す将来像が明確であればあるほど、そのために今やっておかねばならないことははっきりし、「浪費」と「経費」を分けるお金の価値観、「投資」の優先順位も必然的に定まると思う。

第二は、お金を使った後の行動だ。特に、「投資」は、お金を払っただけでは期待する成果は得られない。例えば、「自分への投資」という言葉があるが、お稽古事や教材にいくらお金をかけても自然に力がつくわけではない。地道に学ぶ努力が不可欠だからだ。「投資」を「浪費」にしないためには、「投資」したお金を活かしきり、成果を得られるまで、たゆまぬ努力^いを続けることが大切だと思う。

以上、母とのゲーム感覚での「買い物判定」をきっかけに、私が考え、辿り着いた「お金の使い方」についての「真の心得」について述べたが、お金というものは、それ自体に価値があるというより、使う人が描く夢、それに向かったの使いみちや使い方によって、その価値は大きくも小さくもなるように思う。私も、これから「投資」していく大切なお金が、輝く将来に向けて存分に活躍してくれるよう、もう一度、自分自身、そして自分の将来を、きちんと見つめ直しておこうと思う。

